BIFUKU TSUSHIN Co.,Ltd.

株式会社備福通信

環境経営レポート

（対象期間：２０２３年４月～２０２４年３月）

発行日　：　　2024年9月30日

目　次

1.　環境経緯方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2.　取組の対象組織・活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　認証・登録の対象範囲
　事業紹介

3.　実施体制図及び役割・責任・権限表 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

4.　2023年度及び中長期　環境経営目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

5.　環境関連法規等の順守状況の評価の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

6.　代表者による全体の評価と見直し ・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

7.　環境経営活動の紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

株式会社備福通信

環境経営方針

当社は、電気通信工事、電気工事の各事業分野において、地球環境の保全のために、環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的・継続的に環境への取組を推進します。

環境保全への行動指針

①．環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

②．二酸化炭素排出量の削減を推進します（電気、ガソリン、軽油、灯油）

③．事務所での廃棄物の削減を推進します。

④．建設現場等での建設リサイクル、再生資源の利用を推進します。

⑤．水道使用量の削減を推進します。

⑥．環境に配慮した施工技術の開発と顧客への提案を推進します。

⑦．本方針を全従業員に周知徹底します。

私たちはエコアクション２１の活動を通じてＳＤＧｓに取り組みます。

制定日： 2023年5月1日
代表取締役　　河原　貴行

２．取組の対象組織・活動

組　織　の　概　要

（１）　名称及び代表者名
株式会社備福通信
代表取締役　河原　貴行

（２）　所在地
本　　社　　〒702-8048　岡山県岡山市南区福吉町29-28

（３）　環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	代表取締役	河原　貴行	TEL：086-264-2694
担当者	総務部	木村　由紀枝	FAX：086-265-8219
			E-mail：m-nakai@bifuku-t.co.jp

（４）　事業内容
電気通信工事業、電気工事業

（５）　設立　　昭和45年11月2日

（６）　資本金　　1,000万円

（７）　事業の規模
年間工事完成高　330 百万円（2022年度）

	本社	資材倉庫	合計
従業員　（人）	23	無人	23
延べ床面積（㎡）	232.5	684	916.5
敷地面積　（㎡）	420.75	1111.3	1532.05

エコアクション２１対象従業員数（本社）23名

保有車両

名称	台数
穴堀建柱車	2
ユニック	2
高所作業車	9
トラック	1
ダンプ	2
軽四・乗用車	11

（８）　事業年度　　11月～翌年10月

■認証・登録の対象範囲

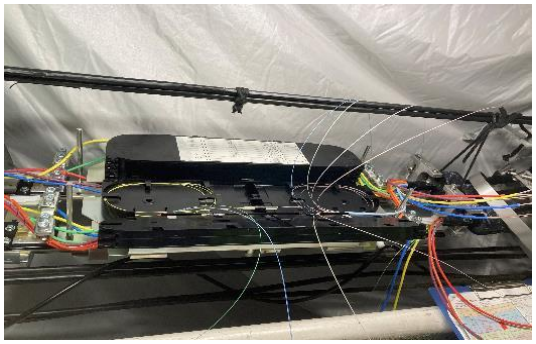
登録組織名：　株式会社備福通信

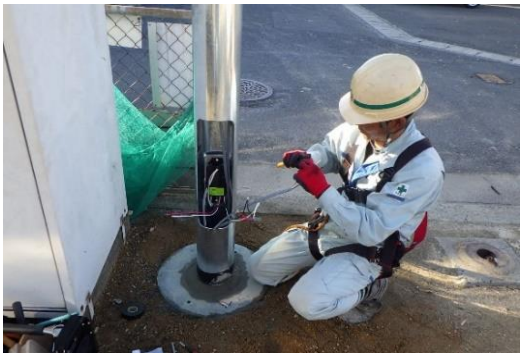
対象事業所：　本社・資材倉庫

活　動：　電気通信工事業、電気工事業

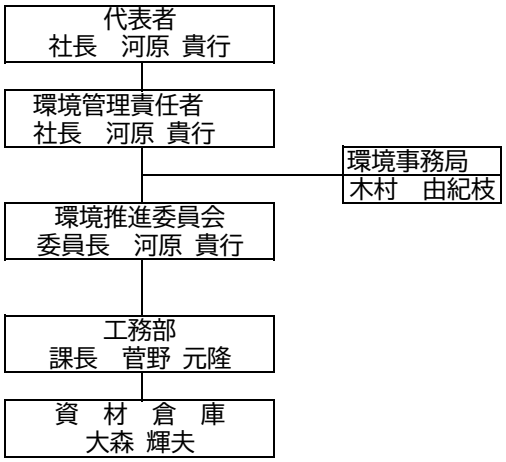
■事業紹介

通信設備工事(外線・接続)、宅内工事、光ケーブル工事(外線・接続)、
建柱工事、通信線路設計、施工管理、電気設備工事、電気申請業務





３．実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営計画の実績集計 ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 ・環境教育訓練計画の作成と実施の管理 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
環境推進委員会	・環境経営目標、環境経営計画案の審議 ・環境経営の実施状況の評価、見直し ・環境教育の内容検討、実施結果の評価 ・特定された項目の手順書作成　（緊急事態への対応を含む）
部門長（部長、工場長）	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・自部門の環境上の緊急事態の想定と対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境目標と実績

４．2023年度及び中長期　環境経営目標

年度：4月～3月

環境目標			単位	2022年度 基準年度	2023年度			2024年度	2025年度
					目標	実績	判定	目標	目標
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO_2	167,167	165,495 以下 (1%)	156,699 6.3%	○	163,824 以下 (2%)	162,152 以下 (3%)
	1-1	電力使用量の削減	kWh	24,031	23,791 以下 (1%)	33,913 -41.1%	×	23,550 以下 (2%)	23,310 以下 (3%)
	1-2	ガソリン使用量の削減	L	17,791	17,613 以下 (1%)	15,651 12.0%	○	17,435 以下 (2%)	17,257 以下 (3%)
	1-3	軽油使用量の削減	L	43,719	43,282 以下 (1%)	39,345 10.0%	○	42,845 以下 (2%)	42,407 以下 (3%)
2	水使用量の削減		㎥	278	270 以下 (1%)	216 22.3%	○	267 以下 (2%)	264 以下 (3%)
3	産業廃棄物排出量の削減		t（m３）	2.20	2.18以下 (1%)	1(5.5m3) 50%	○	2 以下 (2%)	2 以下 (3%)
4	建設産業廃棄物リサイクル率の向上		%	100%	100% 継続	100% -50.0%	X	100% 継続	100% 継続
4	製品･サービスに関する事項	工事後の片づけ・清掃の徹底			行動目標	達成	○	行動目標	行動目標
5	地域貢献	会社周囲の掃除			行動目標	達成	○	行動目標	行動目標

※1　電力の二酸化炭素排出係数は中国電力令和3年度の調整後0.545kg-CO2/kWhを使用しました。
※2　化学物質の使用はありません
※3　次年度の環境経営目標は、上記2024年度目標の通りとする。

5. 2023年度環境経営計画及び評価結果

取組項目		活動項目		評価結果
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	1	エアコンの設定温度を決め実行	昨年度は5月に旧倉庫兼事務所を取り壊した為、電力使用量が減少したが、本年度は5月から新倉庫兼事務所の稼働により電力消費が増加した。 また、猛暑の為エアコンの使用時間が増加した。
		2	エアコンのフィルター掃除	
		3	節電ステッカーを取り付け　励行する	
		4	アスエネゼロによりCO2の排出量の見える化する	
		5		
	化石燃料使用量の削減	1	エコドライブの推進	県外出張等が減少したため概ね目標を達成できた、一部夜間作業の増加により前年を上回った月があった。
		2	車両にアイドリングスットプのステッカーを貼り　励行する	
		3	適正温度管理の徹底	
		4		
		5		
産業廃棄物リサイクル率の向上 産業廃棄物排出量の削減		1	分別の徹底	昨年度はコンクリート塊のみの排出で再資源化率が100%でしたが、今年度は木くず、紙くず、廃プラスチックが発生し、再資源化が50%しかできなかった。 次年度は産廃処理業者と連携し、保管と分別管理を徹底することにより再資源化率を増やしていく。 （産業廃棄物排出量は昨年度のコンクリート塊2.2tでした。今年度は数量の単位がｍ３となり、見た目の評価は削減しました。）
		2		
水使用量の削減		1	節水ステッカーを取り付け　励行する	新倉庫の建設により屋根を大きく整備し、車両の汚れが減った。また、駐車場をアスファルト舗装することで砂ぼこりが減り、散水する機会が減った。 次年度は従業員へ節水の呼びかけを強化していく
		2		
		3		
工事後の片づけ 清掃の徹底 会社周辺の清掃		1	草取り、ごみ拾い、水路の清掃	概ね目標を達成できた。 次年度は、実施日を設定し従業員の参加率を上げていく。

＊次年度もこの環境経営計画を継続する

6.　環境関連法規等の順守状況の評価の結果

主な環境関連法などおよび順守評価結果は、下表の通りです。

環境関連法規等		順守評価
廃棄物処理法		順守
建設リサイクル法		順守
フロン排出抑制法		順守
省エネルギー法		順守
ＰＲＴＲ法		順守
家電リサイクル法		順守
消防法		順守
岡山市火災予防条例		順守

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、特定されたすべて法規等が順守されていることを確認しました。
なお、環境関連法規等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去３年間ありませんでした。

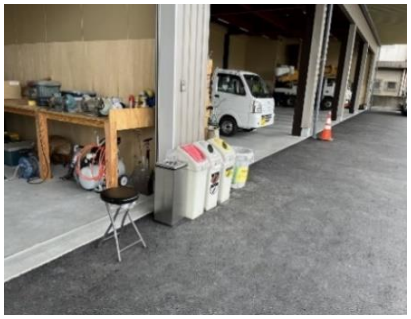
9.　代表者による全体の評価と見直し

3Ｒなどの無駄をなくす取り組みを定着させるため、今後は更なる啓蒙活動を行い、
全社員への徹底を図って行く必要があります。
　全体としては、非常に厳しい経済状況の中、投資をなるべく抑えて、目標を設定して実行し、
目標を達成して来たことは、非常に評価出来ると考えます。

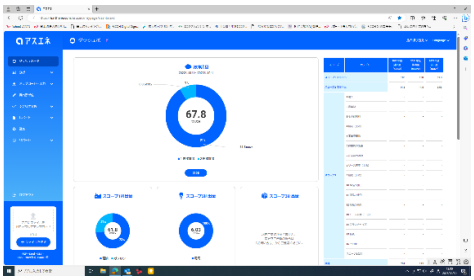
2024年3月31日
代表取締役 河原　貴行

7.　環境経営活動の紹介

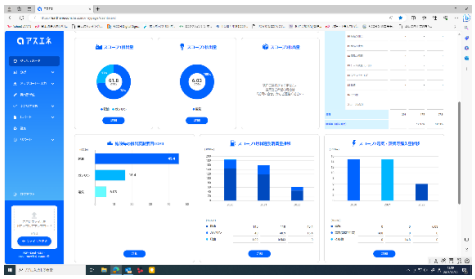
＜エコアクション掲示板＞



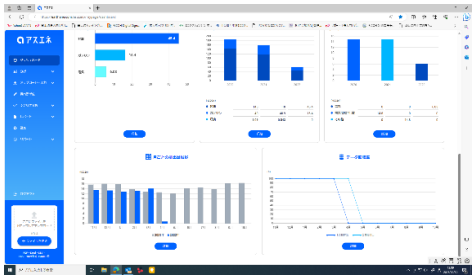
＜ごみの分別＞



＜CO2の排出量＞



＜電気・化石燃料の使用量＞



＜排出量推移＞

＜太陽光発電＞

＜清掃活動＞

＜＞